

どう ちょうさ けっか がいよう ちょうさ  
**同アンケート調査結果概要（調査②）**

1 経緯

第5回運営会議（R8.1.29）で、「短期入所事業所 緊急時受け入れ状況等に係るアンケート」結果を報告した際、**短期入所が必要となった背景など、障がい者の具体的な情報が必要**との意見があったことを受け、短期入所事業者を対象に追加でアンケートを実施したもの。

※緊急時の受け入れ

前々日、前日又は当日の申し込みによる利用。緊急時短期入所受入加算の対象。

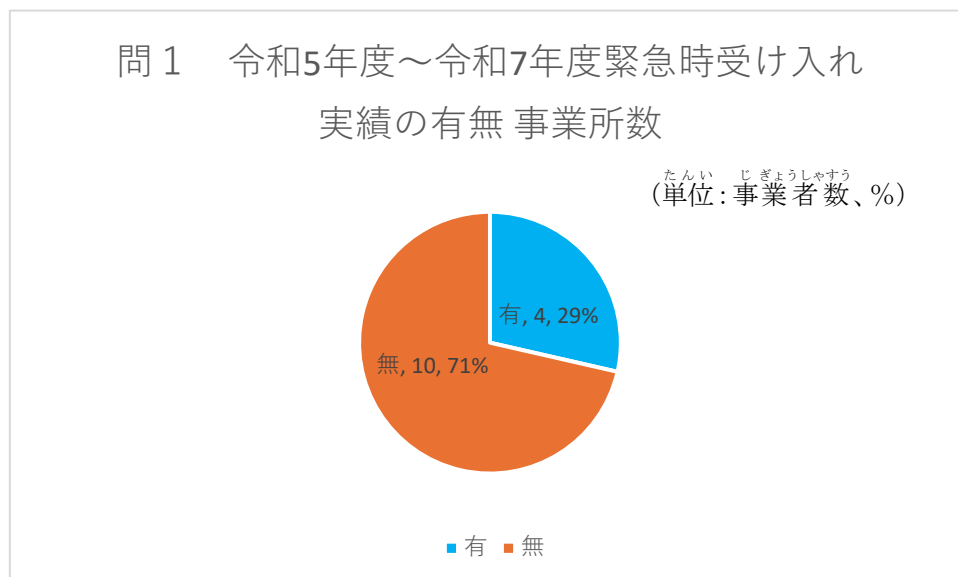
2 回答事業者数

○令和8年2月18日時点で14者（12月調査時点：回答者数 14者）から回答をいただいた。

3 回答

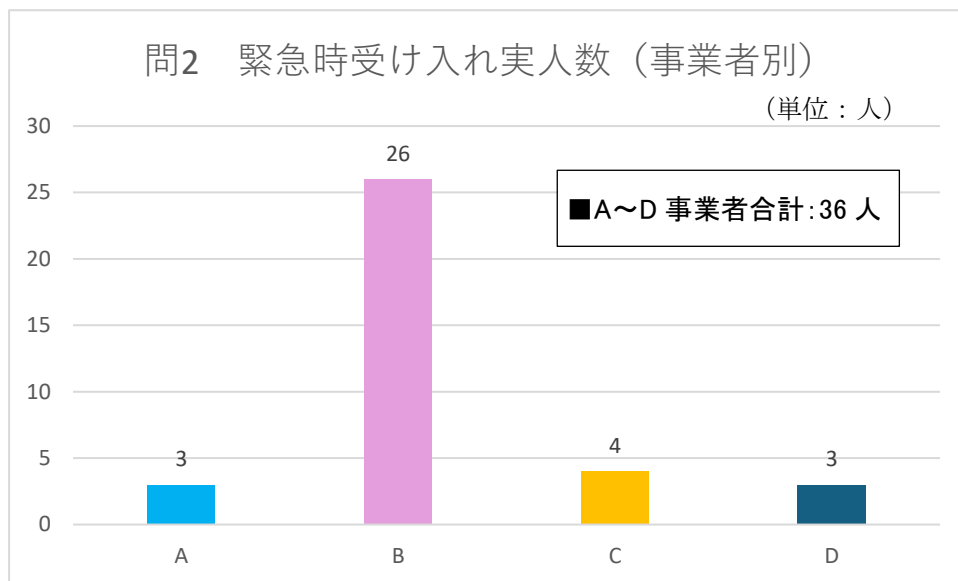
(1) 緊急時受け入れ実績の有無（令和5年度～令和7年度）

○緊急時受け入れの実績があったのは、4事業者で28.6%、なかったのは10事業者で71.4%であった。



(2) 緊急時受け入れ実人数(令和5年度～令和7年度)

○緊急時受け入れの実人数の4事業者合計は36人であった。  
 最も多いのは「B事業者」で26人であった。



(3) 緊急時受け入れした利用者のうち、18才以上で「障がい支援区分がなかった」

利用者の実人数

○緊急時受け入れした利用者のうち、18才以上で「障がい支援区分がなかった利用者」は「0」であった。

利用者	実人数 (人)
支援区分 なし	0

(4) 緊急時受け入れの利用者の障がい種別、児・者の内訳

○利用者の内訳では、知的障がい児・者が31人で86.1%を占め、次いで身体障がい者が5人で13.9%であった。

(単位：人)

障がい種別等	内訳	利用者数
身体 (5人)	重度・児	0
	重度・者	5
	中軽度・児	0
	中軽度・者	0
知的 (31人)	重度・児	1
	重度・者	21
	中軽度・児	1
	中軽度・者	8
精神 (0人)	重度・児	0
	重度・者	0
	中軽度・児	0
	中軽度・者	0
発達障がい、 難病など (0人)	児	0
	者	0
合計		36

【身体】

重度：1級・2級 中軽度：3級

【知的】

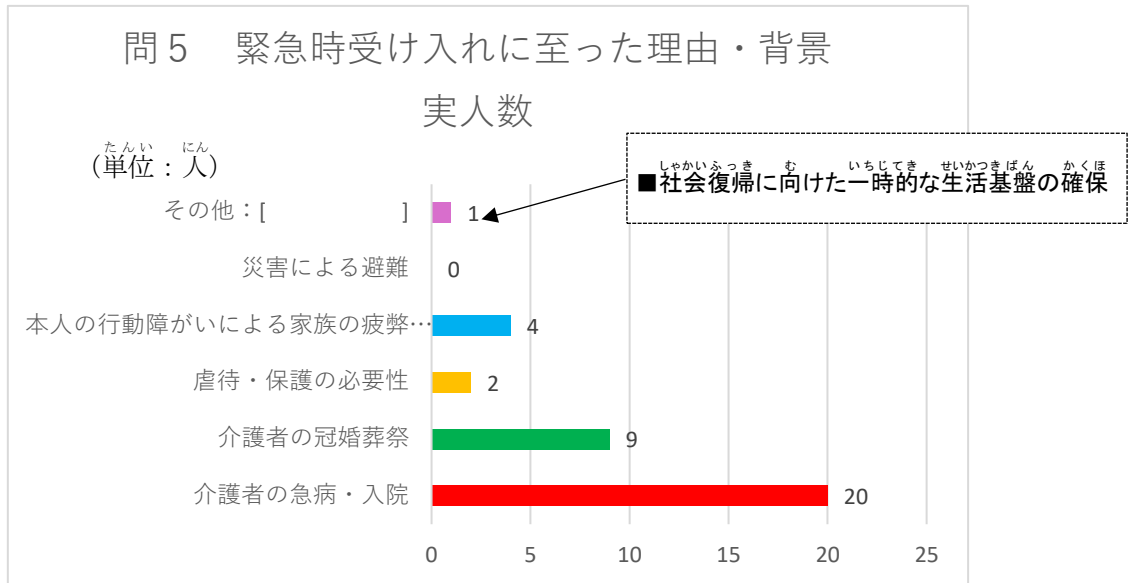
重度：A、中軽度：B

【精神】

重度：1級 中軽度：2, 3級

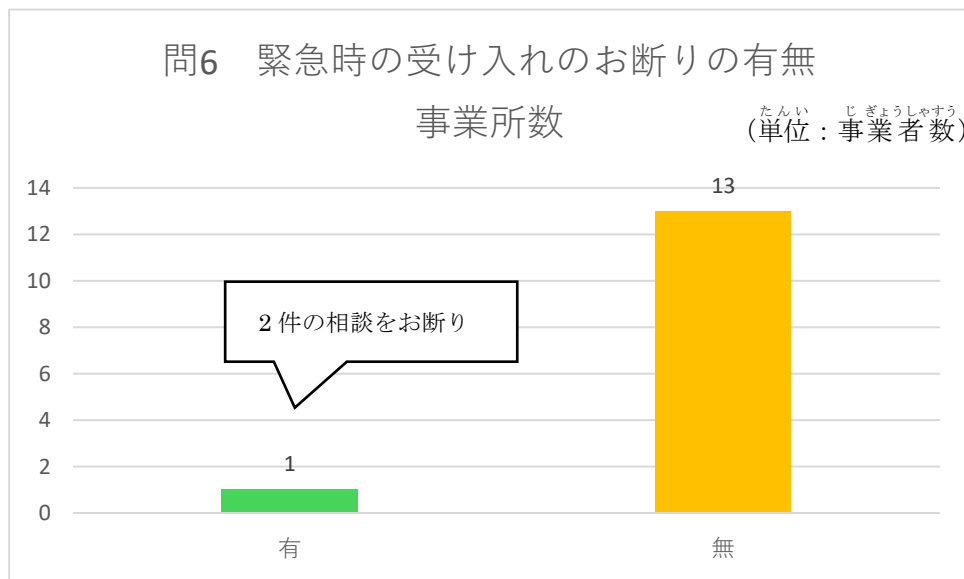
(5) 緊急時受け入れに至った理由・背景

○緊急時受け入れに至った理由等としては、最も多かったのが「介護者の急病・入院」が20人で55.6%、次いで「介護者の冠婚葬祭」が9人で25%、「本人の行動障がいによる家族の疲弊（レスパイト）」が4人で11.1%、虐待・保護の必要性が2人で5.6%であった。



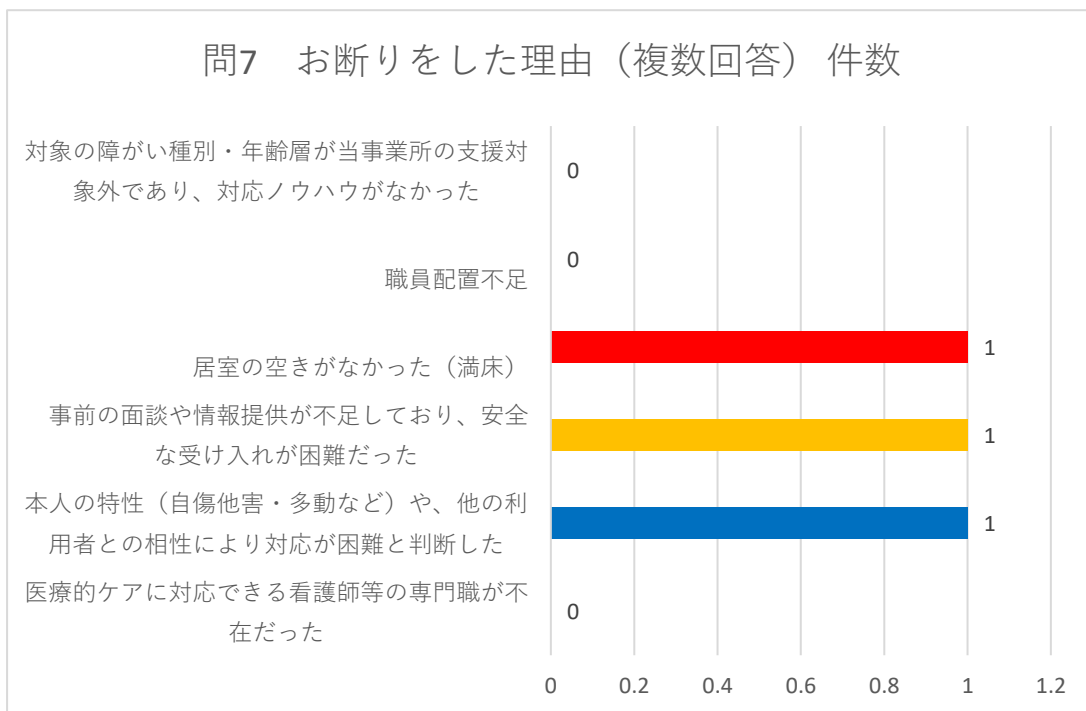
(6) 緊急時の受け入れをお断りした事業者数、件数(令和5年度～令和7年度)

○緊急時の受け入れをお断りしたことがあるのは、14事業者中、1事業者であった。お断りをした件数は、2件であった。



(7) 緊急時の受け入れをお断りした理由(複数回答)

○お断りをした理由は、「居室の空きがなかった(満床)」「事前の面談や情報提供が不足しており、安全な受け入れが困難だった」「本人の特性(自傷他害・多動など)や、他の利用者との相性により対応が困難と判断した」が各1件であった。

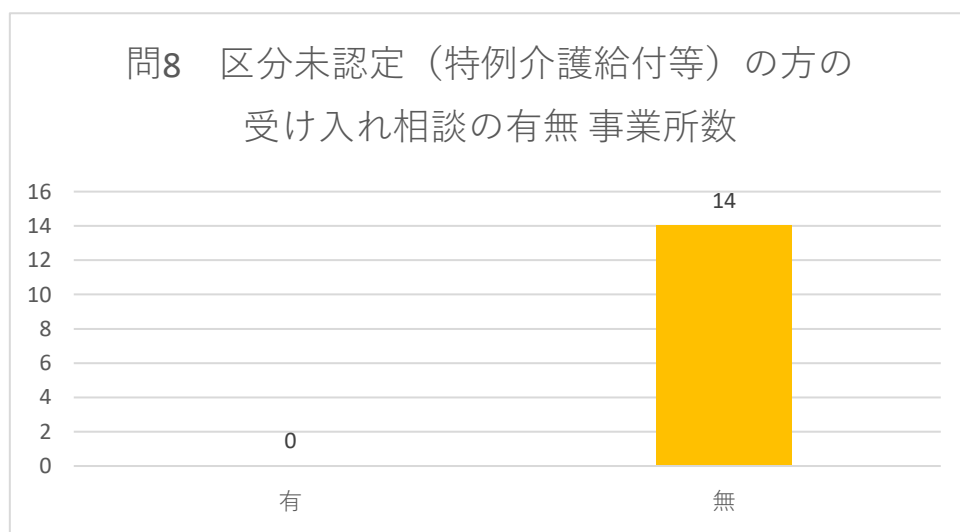


(8) 区分未認定(特例介護給付等)の方の受け入れ相談(令和5年度～令和7年度)

の有無

(単位:事業者数)

○区分未認定の方の受け入れ相談の実績はなかった。



(9) 特例(区分未認定)での受け入れを判断する際、障壁となること(複数回答)

○区分未認定での受け入れの際に障壁となることで、最も多かったのは、「アセスメント情報が不足している」が11件で、次いで「区分が確定していないため、人員配置や報酬額の見通しが立たない」が7件、次いで「自治体との調整(支給決定事務等)に時間がかかる」が5件であった。

